

外来がん化学療法患者の推定腎機能に対する S-1 処方量の評価

玉木 麗花¹⁾、伊藤 学²⁾、竹村 健志³⁾、永野 悠馬⁴⁾、前田 守⁴⁾、長谷川 佳孝⁴⁾、
月岡 良太⁴⁾、森澤 あずさ⁴⁾、大石 美也⁴⁾

- 1)(株)ダイチク アイン薬局 新大前店
- 2)(株)ダイチク モトイ調剤薬局 寺地店
- 3)(株)ダイチク
- 4)(株)アインホールディングス

【目的】 外来がん化学療法で広く使用されている S-1 (テガフル・ギメラシル・オテラシル) は腎代謝型の薬物であり、安全な治療継続には腎機能を考慮した用量調整が重要となる。そこで、外来がん化学療法における S-1 の処方量を調査し、適正使用に向けて薬局薬剤師が果たすべき役割を検討した。

【方法】 2020 年 10 月に当社グループが運営する保険薬局 351 店舗に S-1 を含む処方箋を持参した 20 歳以上の患者 (男性 1,468 名、女性 957 名) を対象として、S-1 処方量 (実値) を調査した。また、対象患者の年齢・性別と厚生労働省「国民健康・栄養調査 (令和元年)」から、体表面積 (DuBois 式) と Ccr (Cockcroft-Gault 式) を推算し、これをもとに使用上限値 (理論値) を算出した。対象患者は、20 歳以上 60 歳未満は年代で、60 歳以上 80 歳未満は 5 歳間隔で、80 歳以上はひとつの群として群分けし、実値が理論値を上回る患者の割合 (超過率) を算出したアイングループ医療研究倫理審査委員会承認番号: AHD-0112)。

【結果】 超過率は、70 歳未満では男女ともにほぼ 0%であったが、70 歳以上 75 歳未満の群では男性で 0.3%、女性で 12.7%、75 歳以上 80 歳未満の群では男性で 2.7%、女性で 32.6%、80 歳以上の群では男性で 6.9%、女性で 16.3%であった。

【考察】 超過率は 70 歳以上で上昇し、特に女性でその傾向が顕著である可能性が示唆された。なかでも、女性の 75 歳以上 80 歳未満群では、約 3 人に 1 人が腎機能に対して処方量が超過している可能性が示唆された。ただし、本研究は厚生労働省が公示する年齢、性別ごとの平均データを使用して腎機能を評価したため、体格や代謝機能などの個人差を加味していない。したがって、あくまでも可能性の示唆であるが、特に 70 歳以上の女性に対しては、腎機能にかかる個人差が大きくなることを想定して、検査値や副作用の状況などを注意深く確認し、必要に応じて処方量の提案を行うことも薬局薬剤師の重要な役割であると考えられる。

(第 31 回医療薬学会年会 (2021 年 10 月, Web) にて発表, 一部要約)